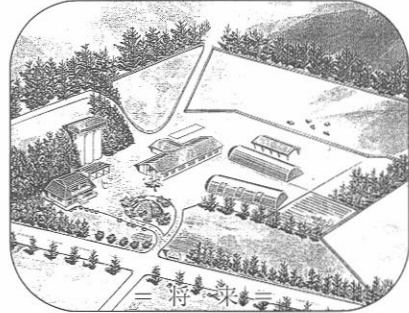


3 何から始める環境整備

環境整備というと「とても大変な事から始めなくてはいけない!」と考えがちですが、まず自分の周りで手を付けられることから始めるということが大切です。

- 自分の農場を点検する。(良いところ・改善を要すること)

どの農場にも「我が農場の将来像」というものがあると思います。その“将来像”に照らし合わせて、今、何をしなければいけないかを「環境整備のためのチェックポイント」で点検してみましょう。



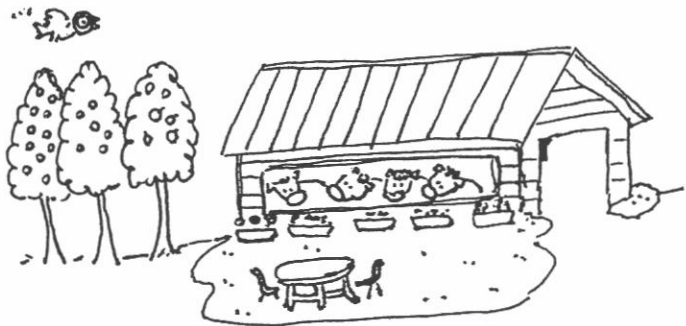
(1) 環境整備のイロハ

- 家族と環境整備の必要性を話し合います。



- 宅地周辺の不用な物からかたづけます。
その場合、保存と廃棄する価値判断を家族と十分話し合います。
この段階で、つまずくと前進しません。

- 野外で昼食や客の接待できる場所を設けましょう。



- 小果樹・屋敷林・防風林などは、年数がかかります。樹木も地域に自生しているものや、花・実・木の姿を見たり、多くの種類の小鳥がくる広葉樹や針葉樹の樹木を一日でも早く植えましょう。



- 環境整備は「木の生長のように息の長い」取り組みが必要です。
家族と地域の人々とのチームワークも大切なことです。

○ 景観、環境づくりは、その家や人の個性・歴史・文化などを発揮できる最良の場面です。

「日本最後の棟梁」で宮大工の西岡常一さんは、棟梁とは「木のクセを見抜き、それを適材適所に使うことやね」「右にねじれている木は左ねじれの木と組み合わせず」と言っています。
さすがは「日本一の職人芸」です。

4 環境整備のためのチェックシート

あなたの「環境整備」度は？

こんなところをチェック！

(いいえと答えた項目に改善策を記入しましょう)

生活空間

- ★1 環境整備は家族全員で取り組んでいる
- ★2 屋敷周辺の不要なものは適正な場所に整理整頓している
- ★3 屋敷周辺の雑草は取り除いている
- ★4 屋敷林がある
- ★5 芝生・花壇・庭があり手入れをしている
- 6 燃えるゴミと燃えないゴミを区分して処理している
- 7 焼却炉があり使用している
- 8 生ゴミは堆肥にし、活用している
- 9 粗大ゴミのリサイクルをしている
- ★10 住宅周辺はぬかるまないようにしている
- ★11 趣味の部屋（施設）がある
- 12 着替えスペースを設けて生産と生活を区別している
- ★13 生活用と生産用道路を区別している

はい いいえ → 改善策

交流空間

- ★1 看板がある
- ★2 家族で楽しめる「憩いの場」（焼肉コーナー・東屋）がある
- 3 作業中ちょっと手を休める空間がある
- ★4 訪問された時に話し合えるスペースがある

はい いいえ → 改善策

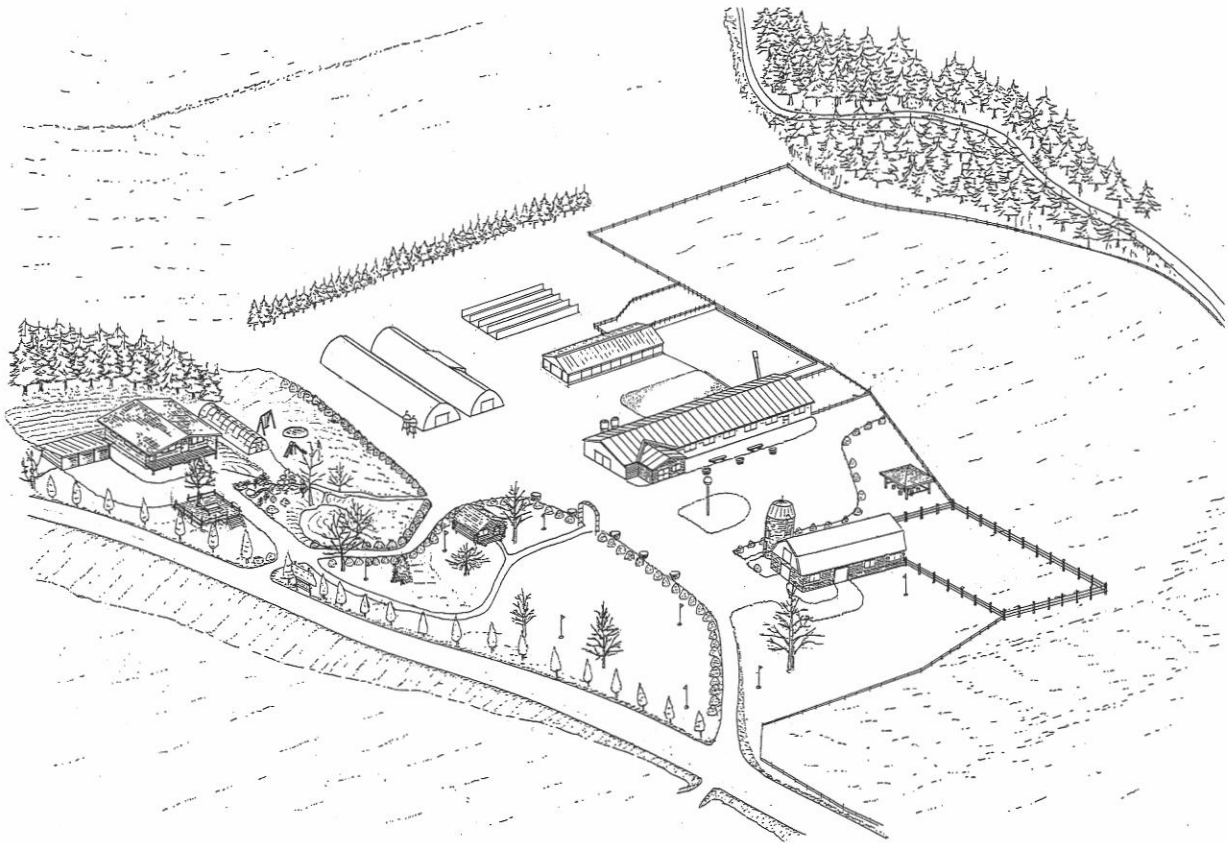


生産空間

<牛舎周辺>

- ★1 農機具や肥料袋などは適正な場所に整理している
- 2 使用済みの空きビンなどは適正な場所に処理している
- ★3 牛舎の周りやパドックはぬかるみのないようになっている
- 4 堆肥盤を整備し川に流れないように配慮している
- 5 施設は作業のしやすい配置になっている
- ★6 古い建物を有効に活用している

はい いいえ → 改善策



<牛舎内部>

- 1 牛舎内部のホコリを払っている
- 2 通路に石灰などを撒いて衛生に気をつけている
- 3 ハエの発生を防止している
- 4 換気に注意している
- 5 牛舎や処理室に動物が入らないようになっている
- 6 休憩室・事務室があり活用している

はい いいえ → 改善策

注) ★印; 農場景観改善チェック項目

(1) 美しい農場景観の実現に向けて

① 家族みんなが取り組む環境整備

我が家、我が農場の環境整備については、「なにが必要か」「どうすれば実現できるか」「将来描いている農場にするにはどうしたらよいか」など家族の中で話し合うことが第一歩となります。家族経営は家族の気持ちが揃わなければなかなかうまくいかないものです。環境整備や改善計画をたてても、家族の協力が得られなければ成果はあがりません。まず、家族みんなの意見を尊重し合っ
て十分に話し合い、理解を深めることです。ただ汚いものをかたづけるというだけではなく、今後、自分の農場をどのように整備するか、と考えれば思い描くことはたくさんあるはずです。

② 現状のチェック

家族での話し合いの中で、具体的に現状をチェックして見る必要があります。チェックシート(P14・15参照)でチェックした項目についてどうしたら改善できるかを家族で検討してみましょう。

意外に気付かなかったところを改善しなければならない場合も出てきます。反面、農村ならではの利点を生かしていくことも必要です。例えば、住宅から見える山並みの美しさ、牛舎から望む広大な湖、夕日に映える放牧風景など根室だからこそ味わえる良さというものもあります。また、敷地が広いことを活用して、芝生やテニスコートをつくる、古い施設のリフォームで趣味の場にするなどの楽しみ方を考えてみてはどうでしょうか？



写真4 フェンス塗装前

パドックのフェンスは鉄パイプ製ですが、白いペンキ塗装され美しく仕上がっています。

(平成6年)



写真5 フェンス塗装後

(平成7年)

③ 将来構想を立てる

現状をチェックした中で、すぐ改善できることと、将来に取り組んでいかなければならないことがあるはずです。

施設位置の変更、増築、住宅新築などの大がかりなものは計画的に行わなければなりません。また、屋敷林、防風林などの場合は生長に年数がかかるので、早く植樹したいものです。

このように、何から手をつけるか、早急に改善するもの、計画的に行なうものに分けて考え、「将来の我が農場はこうしたい」という構想を持ちます。

構想を立てるにあたって、イメージイラストを書き検討すると、より一層現実的になります（P19参照）。

④ 目標の実現に向けて計画をたてる

将来の目標を設定したら「いつ」「どのように」実現するか計画を立ててみます。この際、経営主、家族の年齢や家族構成など個々の農場の条件が違うのでライフサイクルに合った計画を立てる必要があります（表5）。

表5. 環境整備計画樹立の留意事項

家族の特徴	構成、年齢、後継者の有無、公職の有無など
営農の特徴	営農形態、経営の状況、将来目標、当面の計画など
立地条件	地形、土性、気象条件、河川、景観など
その他	交通条件、観光地・市街地からの距離など

また、今すぐにでも実行したいこと、3年後位まで、中長期的に考えたいことを分けて検討します（表6）。

投資が必要なものや生産基盤の変更がともなうものは中長期的計画に入ってくる場合が多いでしょう。



表6 環境整備点検結果から

	生活	生産	交流
すぐにも実行したいもの	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 住宅周辺の草刈り、整地 ◦ 不用物の除去 ◦ 未使用ビニール資材の整理 ◦ 植林 (シンボルツリー、記念樹、屋敷林、防風林など) 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 施設周辺のぬかるみ解消 (バドック、バンカー、スタック周辺、牛移動通路等) ◦ 不用物の除去 (廃材、牛舎内外のゴミ等) ◦ 古い施設の検討 (撤去、修理、再利用) ◦ 収納スペースの設置 (作業着から機械にいたるまで) ◦ 牛舎内の環境整備 (壁、天井の清掃、照明の清掃、換気等) ◦ 処理室内への犬、猫侵入防止 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 看板の設置 など
計画的に整備したいもの	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 住宅周辺の舗装 ◦ 花壇、芝生成成など周辺美化 ◦ 住宅の増改築、新築 ◦ 生け垣 (生産ゾーンとの分離) 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 堆肥盤の整備 ◦ 施設の更新、改造 (増築、改造再利用等含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ゲストハウス ◦ 趣味の場所の確保 ◦ 東屋の建設

◦ 排水施設の整備（合併浄化槽の設置）

◦ 私道の整備（生活道路と生産道路の区分）

⑤ 役割分担を考える

計画実現のため「だれが主体になって進めるか」を決めておく必要があります。責任を持つことは、計画に積極的に参加することです。しかし、いくら役割分担といっても全部まかせっきりではいけません。お互いに協力できるようにしたいものです。この役割分担と前述の改善計画樹立は家族の話し合いが最も必要です。

環境整備は、息の長い取り組みと家族みんなの協力がなければ実現しません。「我が家の将来像」実現に向けて、簡単に取り組むことができるものからはじめたいものです。